

### 第3回尖石縄文文化賞

受賞者: 会田進

尖石縄文文化賞条例にもとづく、同賞の選考委員会は、矢崎和広市長の諮問を受け、委員4名の出席の下に、9月10日、尖石縄文考古館で行われた。

今回、選考・審査の対象となったのは、自・他薦を含めて、個人8件であった。候補者の内訳は、年齢的には40歳代から60歳代におよび、研究者としての所属機関等、および職業など幅広い層からなり、また寄せられた「受賞の対象となる研究及び活動の業績」についても、宮坂英弑が尖石遺跡等の発掘や研究をつうじてめざした、縄文時代の歴史の本質に迫る、すぐれた研究と活動を示すものが大部分であった。このことは、本年第3回目を迎えた本賞の制定の趣旨が、広く学界等一般に周知された結果として、誠に喜ばしいことである。

こうしたすぐれた多くの候補者を得て、選考委員会は慎重な審議を重ねた結果、第3回尖石縄文文化賞の受賞者として、会田進氏（岡谷市）を、全会一致で推薦することに決定した。

同氏は1969年大学卒業後、岡谷市の職員として勤務しながら、学生時代からのテーマである縄文早期押型文土器の研究に取り組み、優れた論文を発表している。

遺跡の発掘調査報告書も『樋沢押型文遺跡調査研究報告書』および『樋沢遺跡』、『梨久保遺跡』や『橋原遺跡』、『花上寺遺跡』などは、その精緻な分析に基づく学術的内容により、研究者から高い評価を受けている。

また、文化財保護活動に熱心に取り組む一方、市民を対象として「土師の会」を組織し、縄文土器の復元、土器作り、石器づくり、縄文食作りなどユニークな活動を行うなかで、市民への考古学の啓発につとめられている。

考古学のあるべき姿を市民とともに追求し続ける姿勢は、宮坂英弑の学問的精神にも深くつうじ、茅野市が本賞を制定した意義にそった、まことにふさわしい受賞者である。

2002年9月13日

宮坂英弑記念尖石縄文文化賞選考委員会  
委員長 戸沢充則



第3回受賞者 会田進氏